

様式第3号（第1項関係）
経理基準

行政視察報告書

令和8年1月5日

会 派 名 みらい創造クラブ
代表者氏名 代表 阿部裕和
又は議員氏名

- 1 視察議員名
 阿部裕和 利根川正 東野恭行 関原奈津美
- 2 視察期間
 令和7年11月12日（水）から
 令和7年11月14日（金）までの 3日間
- 3 視察先
 1、群馬県太田市 北の杜学園（義務教育学校について）
 2、群馬県桐生市 桐ペイの取組について
 3、北海道函館市 LINEを活用した子育て支援サービスの運用について
- 4 視察目的
 教育・地域経済・子育て支援における先進的取組に関する調査のため
- 5 視察の概要
 別紙のとおり



みらい創造クラブ 行政視察報告書

【議員】

阿部裕和 利根川正 東野恭行 関原奈津美

【視察日程・視察先・調査項目】

① 令和7年11月12日（水）

群馬県太田市 北の杜学園（義務教育学校）の取組について

② 令和7年11月13日（木）

群馬県桐生市 桐ペイの取組について

③ 令和7年11月14日（金）

北海道函館市 LINEを活用した子育て支援サービスの運用について

① 群馬県太田市 北の杜学園（義務教育学校）の取組について

1、市の概要

群馬県太田市は、平成17年3月28日に太田市、尾島町、新田町及び藪塚本町の1市3町が新設合併し、新「太田市」が誕生しました。令和7年3月末現在の人口数222,763人（男114,426人、女108,337人）です。

太田市は、自動車メーカーSUBARUが100年以上にわたり、その技術と精神をはぐくんできた「ものづくりのまち」として知られています。

2、北の杜学園（義務教育学校）の特徴

北の杜学園は、教育効果の高い新しい教育の形を前向きに取り入れるという考え、太田東小学校と韮川西小学校、北中学校の3校を統合してできた義務教育学校です。

北の杜学園は、校舎一体型、ひとりの校長、一つの教職員組織で開校されております。

- 9学年を4つのステージで構成 2・2・3・2

ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4
1・2年	3・4年	5・6・7年	8・9年
(45分授業)	(45分授業)	(50分授業)	(50分授業)

	1～4年生	5～9年生
始業時刻	♪ 8：25	♪ 8：25
1校時	8：55～ 9：40	8：45～ 9：35
2校時	9：50～10：35	9：45～10：35
休み時間	♪ 10：35～10：55	♪ 10：35～10：55
3校時	♪ 10：55～11：40	♪ 10：55～11：45
4校時	11：50～12：35	11：55～12：45
給食	12：35～13：20	12：45～13：20
清掃・昼休み	♪ 13：20～13：55	♪ 13：20～13：55
5校時	♪ 13：55～14：40	♪ 13：55～14：45
6校時	14：50～15：35	14：55～15：45
放課時刻	15：50	16：00

- ・ 各ステージに教育活動全体をマネジメントするステージリーダーを配置し、ステージリーダーを中心に全教職員で協働して児童生徒の教育の充実を図る。
- ・ 1～4年と5～9年は、授業時間が違うので、全校共通の時間（区切り目）だけチャイムを鳴らすことにより、児童生徒は時計を見て主体的に行動するよう指導できる。

- 5年生からの完全教科担任制と3・4年生の一部教科担任制の導入
- ・ 専門教科の免許を持った教員が指導することができる。
- ・ 複数の教科担当職員が児童生徒との関係を築き、個に応じた指導ができる。
- ・ 児童生徒理解に基づき複数教員で児童生徒を適切に支援できる。

■ 異年齢交流活動の充実

- ・ 9学年合同行事や各学年の行事を充実させることにより、お世話された経験から上級生への憧れや下級生への思いやりを持てる。

■ 太田市版コミュニティスクールの開催

- ・ 学校との連携、協働
- ・ 学校運営基本方針の承認、教育活動への意見具申
- ・ 地域の声を届ける（学校への要望や提案等）
- ・ 学校支援センターの役割



3、所感

人口減少により地方の義務教育（小中学校）は、1つの校舎で1人の校長による運営が余儀なくされている時代背景の中、北の杜学園は先進的に教育効果の高い、新しい教育の形を取り入れている。令和3年に杜学園開校、特色として9年間をステージ制で、2、2、3、2で構成されている仕組みにより、学年の区切りで生じやすい教育内容の断絶がほぼ解消され、学習の積み上げが明確に設計されていました。1年生から9年生までが同じ校舎で生活するため、日常的に異年齢交流の機会が促進され、下級生への思いやりやリーダーシップ、フォローシップ等が育まれ、現代に必要な社会性が育まれると感じた。

また、教員が小中を通して連携しており、児童生徒の情報共有が確実に行われていました。さらに、小学校3・4年生から段階的に教科担任制を導入し、小学校5・6年生では完全な教科担任制へ移行しているため、複数の担任の先生が代わることで専門的知識が学べて先生との関わりも深くなる。

PTA活動においても、専門部は置かずボランティア制で実施しており、入会率96%でした。そして、「太田市型学校運営協議会」の設置により、地域住民や保護者からの助言を頂く機会を設けていました。

校長からは、「一つの校舎で、一つの組織で、そして一人の校長のもとで学ぶことで、一体的な教育が実現する」との説明がありました。この方針は義務教育学校の理念をよく表していると感じました。特色のある教育システムの中に、しっかりとした目的が備わっており、学校の先生も生き生きとされていて、糸魚川市においても可能な限り義務教育学校を進めてもらいたいと考えます。

② 群馬県桐生市 桐ペイの取組について

1、市の概要

桐生市は、平成17年6月13日に桐生市、新里村、黒保根村の1市2村が合併し、新「桐生市」が誕生しました。令和7年10月末現在の人口数99,628人（男48,186人、女51,442人）です。

桐生市は、古くから「西の西陣、東の桐生」と称された1300年の歴史を持つ日本を代表する絹織物の産地であります。

2、桐ペイの運用について

コロナ禍の影響による生活者支援、キャッシュレス決済による新しい生活様式の普及、地域経済の好循環を目的とし導入する。

桐ペイの概要

発行主体	桐生市
単位	ポイント（1ポイント＝1円で換算）
ポイントの 取得方法	指定場所での現金チャージや各種キャンペーンの参加により付与される
使用媒体	・スマホアプリ ・QRコード付き専用カード
手数料	無料
有効期限	チャージ分は、2年間有効 ポイント分は、約3年間有効
アプリ間送金	スマホアプリ利用者間で可能 1回の上限額20,000円、月5回まで送金可能
備考	株式会社トラストバンクの提供する地域通貨システム（chiica）を活用

桐ペイの関連事業

■ 通常チャージ

チャージ額の1%のプレミアムがいつでももらえる。（月100,000円上限）

■ プレミアムキャンペーン

付与率を増加した期間限定キャンペーン

■ 初回スマホアプリチャージキャンペーン

スマホでチャージした先着10,000名に500ポイントを発行
（プレミアムキャンペーンと同時実施）

■ カード配布事業

全市民に5,000 p t の入った使い切りカードを配布

■ だれでもポイント

個人や事業主催者からの資金を原資として桐生市が桐ペイの「だれでもポイント」を発行する。事業主催者は、事前に桐生市へ申請及び原資の納付を行い、その後、桐生市が発行した「だれでもポイント」をイベントや参加景品等で幅広く活用できる。

また、「だれでもポイント」は、事業主催者が使用できる店舗や有効期限を自由に設定することができる。

■ 定額カード販売

だれでもポイント同様、どなたでもイベントや参加景品等に活用できる。あらかじめ桐生市が定額分のポイントを入れた使い切りカードを用意することで、事前審査や原資の納付などの事務手続きなく気軽に購入できる。

定額カードは、桐生市の子供たちと一緒にデザインしているため、かわいいカードが多く、お祝いや大切な方へのプレゼントとして利用されている。

■ 他課事業

- ・ 出産子育て応援事業として、妊娠届と出生届の際にポイントを給付
- ・ きりゅう健康ポイント事業として、健康づくりの目標達成の方へポイントの贈呈
- ・ 移住検討応援金として、市内の移住活動に伴い、市内に宿泊する方へ使い切りカードを発行 etc

3、所感

桐生市は人口が約10万人で高齢者人口が37.7%の市であるが、桐ペイの加盟店が822店、加入率が市民全体の40%以上という数値に、取り組みに対する自治体の本気度がある。

桐生市の荒木恵司市長は、桐生市で呉服店を営んでおられた経緯もあり、中心市街地や地域経済の活性化のため、つよいリーダーシップのもと地域通貨事業に取り組んできたことが伺える視察であった。

桐ペイの取組として、新しい取組みの運営を「外注」ではなく、市職員の方々が加盟店への協力依頼を最低でも電話連絡で行っている点やまちなか相談窓口として、中心商店街内にチャージや専用カード申請、加盟店申請、利用方法などのサポートする窓口を開設している点が学びになりました。またイベントの際には、特設ブースを設置し、市内でお買い物したイベント来場者へポイントを付与して地域のにぎわいづくりに活きていると感じました。自治体を職員が担っているケースは、どの地域においても一定の成果を上げているように感じました。

また桐ペイの関連事業として、誰でもポイント事業を導入されており、福利厚生や清掃ボランティア、大会の記念品、敬老品、イベントの景品、お祝い品など幅広く使用されておりました。

こうした継続的な働きかけが背景にあるため、大型スーパーマーケットをはじめ、多くの店舗が加盟しており、商店街全体としての協力体制が整っていると感じました。

さらには、アプリ利用者同士の送金機能が大変好評であり、その結果として一定の経済効果が生まれているとの説明を受けました。

当市でも、地域経済の活性化につながると考えられるため、導入に向けて検討と推進を進めたいと感じました。



③ 北海道函館市 LINEを活用した子育て支援サービスの運用について

1、市の概要

函館市は、北海道の南端部に位置し、北国として比較的温暖な気候風土を持っており、日本最初の貿易港の一つとして世界に開かれ、さまざまな外国の文化を取り入れるとともに、水産業や造船業を主要産業として発展を遂げてきています。令和7年10月末現在の人口数233,364人（男106,324人、女127,040人）です。

2、LINEを活用した子育て支援サービスの運用について

はじめの100か月、妊娠期から小学校入学前までの子育て世帯が不便と感じる行政手続き4つの要因（窓口に行く、書類を書く、順番を待つ、情報を調べる）を減らし、寄り添う子育て支援サービスの運用を実現

LINEひとつで申請手続きや予約状況の確認、キャンセルができます。

- 申請
 - ・ 出産応援給付金
 - ・ 子育て応援給付金
 - ・ ひとり親家庭等医療費受給者証再交付申請 etc
- 予約
 - ・ 乳幼児健診
 - ・ 離乳食教室
 - ・ マザーズサポートステーションへの相談予約 etc

マザサポ+に子供の情報を登録すると「今」必要な情報が届きます。

- 子どもや親に合わせた情報
 - ・ 産後ケアで安心サポート
 - ・ ママの産後健康診査
 - ・ 育児相談 etc
- 時期に合わせた情報
 - ・ 親子の交流
 - ・ 保育利用ガイド、手続き方法
 - ・ 一時預かりサービス etc

3、所感

函館市では、子育て世代に馴染みのあるLINEを活用し、妊娠期から子育て期まで一貫して支援する「マザサポプラス」を実施していました。マザサポプラスは、「手軽さ」と「分かりやすさ」から始まり、子育て世代が不便と感じる行政手続き（窓口に行く、書類を書く、順番を待つ、情報を調べる）をオンライン手続きにすることによって、子供と向き合う時間、気持ちの「余白」を増やすことを目的としている。

利用者は、土曜、日曜日、夜でも申請が可能であり、郵送手数料がかからない。また流産、中絶時にも来所せずにLINEで手続きできるため、利用者の気持ちに寄り添うことができる。

支援が必要な家庭に確実に届けるための工夫が随所に見られ、相談に繋がりがしやすい仕組みが整っていると感じました。

また、LINEを用いて申請が完了するシステムの構築や情報提供には、株式会社BotExpressの仕組みが活用（導入自治体は300以上であるが、県内で活用している自治体は無し）されており、自治体が自ら手続き画面を設計できる点が大変勉強になりました。対話形式で手続きが進むため、市民にとって理解しやすく、職員側も業務の効率化を図れる仕組みになっていました。

子育て支援の充実だけではなく、デジタルを活用した市役所業務の見直しが進み、DX化が実際の運用として根付いている点も参考になりました。今後、子供医療費助成に関する手続き、スポーツ団体の補助金、学校開放業務など検討されており、様々な行政サービスに繋がっていくと感じた。函館市役所職員の「熱意」と「プロ意識」を感じる取り組みであった。

市民に寄り添う行政サービスは、当市においても導入の余地があると感じました。

